NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

11月21日（日）「記念館15周年集会」にご参加を！

記念館は今秋 11 月 21 日（日）に川越で「15 周年集会」を開催します。

中帰連の皆様が亡くなると、ご遺族がその資料を処分する傾向が見られ、その貴重な資料の散逸を防ぎ収集するために、2006 年 11 月 6 日に「中帰連平和記念館」が川越市笠幡に NPO として設立されました。

この記念館の土地と中古の建物は中帰連副会長だった札幌の大河原孝一さんが中心になり、全国の中帰連の皆さんに「カンパ」を呼びかけ購入して下さいました。故に、家賃や地代の出費も無く、この場所がなければこの運動は出来ませんでした。また、この 15 年間一切の公的補助を受けず、全国のご理解ご支援下さる皆様の「会費とカンパ」のみに支えられ運営出来たことに、心から御礼と感謝申し上げます。

記念館の主な目的は日本軍の侵略戦争の体験記録や、周恩来首相の「制裁や復讐では憎しみの連鎖は切れない」という指示で彼らが人道的に扱われ、反省を認められて赦され、「鬼から人間」に戻してもらった事実を後世に伝え、必要な方にその資料を提供することです。中帰連の加害体験は特別ではなく、殆どの日本軍兵士はほぼ同じ事をしているのです。しかし、多くの元兵士はその体験を語ることなく亡くなっていきました。中帰連の皆さんは管理所で衣食住の心配がなく、十分に考える時間を与えられ反省でき、彼らは管理所の 6 年に感謝していました。憲法にある通り「信頼関係を築き平和を維持する」ことを目指したいと思います。中帰連の皆さんの思いは「同じ過ちを繰り返さないで欲しい」であると信じます。

「15 周年集会」集会に多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

『NPO中帰連平和記念館15年周年集会』

日時：2021 年 11 月 21 日（日）
（12：30 ～ 16：30）

会場：『ウエスタ川越』
JR・東武東上線「川越駅」西口徒歩 5 分

参加費：無料　（地図：6 頁）

目　　次

・「15 周年集会」開催告知 ……1
・「総会」開催報告……2
・長沼仁さん逝去 ……2
・都内「医労連」来館 ……2
・「練馬の会」来館……3
・連載「記念館資料室から」 ……3
・橋本勝さんの「風刺マンガ」 ‥4
・檜山高雄さんの「油絵」紹介 ‥5
・「はだしのゲン」寄贈……5
・寄贈図書から ……5
・蔵書紹介 ……6
・「一枚の写真」……6
・お詫びとお願い ……6

総 会 開 催 報 告

コロナで開催が遅れていた総会が 7 月 17 日（土）に記念館で開かれました。今回、初めて「オンライン参加」も導入し、正会員 22 名のうち参加 17 名、委任 5 名で総会は成立し、開会しました。

最初に報告事項として宮本司書から、この 1 年の報告があり、来館者や取材訪問などの報告（会報 32 号に同封）がありました。

また、在中国の石田理事からご健在の中帰連の皆様の現状や、中国側の撫順や太原管理所の現況や、今後の資料保存計画について報告がありました。

次に報告承認事項として、宮本司書から会計報告と監事からの「会計監査報告」（会報 32 号に同封）があり、いずれも承認されました。もう一件は役員任期 2 年の改選時期で理事 15 名と監事 2 名の全員が再任・承認されました。

検討事項に入り、今井理事からの「館内展示」について検討審議しました。次に今秋 11 月 21 日（日）に予定した「15 周年集会」の講演者、パネラーの人選などを検討しましたが、詳細については 10 月の理事会で検討することになりました。

「総会」について

NPO の会員は定款で「賛助会員と正会員」で構成され、原則皆様に賛助会員でお願いしておりますが、「総会」に出席ご希望の方は「正会員届」を提出頂ければ、どなたでも可能です。

『赦しの花』
（撫順の朝顔）

長沼仁さん逝去

記念館とも協力関係にある「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」東京支部事務局長や雑誌『中帰連』の編集長としても活躍された長沼仁さんが病のため、57 歳という若さで 6 月 28 日に逝去されました。大変無念です。

長沼さんは東京板橋の「クラウン観光社」の社長でもあり、訪中などでお世話になった方も多いと思います。何時も笑顔の絶えない素晴らしい男性でした。心から御冥福をお祈りすると共に、今までの中帰連関連の運動への協力に感謝申し上げます。

都内「医労連」の皆さん来館

都内の医労連の看護師や介護士の皆さん 8 人が 6 月 20 日（日）に来館下さいました。15 人程の予定でしたが、コロナのため 8 人の参加となりました。

皆さんは過日来館下さった「ジェンダーの会」（会報 30 号）から「中帰連・記念館」を知り来館下さいました。

2 時間余り在館くださり、当日はパワーポイントで関連写真を見て頂きながら、中帰連や記念館の経過説明をしました。その後、31 年前に中帰連を題材にしたＮＨＫスペシャル『戦犯たちの告白』を観て戴きました。その後、質疑応答もあり、後日改めて「カンパ」が振り込まれました。有り難う御座いました。

「平和憲法を守る練馬の会」来館

「平和憲法を守る練馬の会」11 名の皆さまが 9 月 25 日に来館下さいました。当日は午前中に芹沢事務局長がパワーポイントで写真を映しながら、中帰連の歴史や記念館の経緯の説明の後、31 年前の NHK 映像『戦犯たちの告白』(45 分) を観て、持参された昼食を摂り、午後からはやはり NHK の『“認罪” 中国・撫順戦犯管理所の 6 年』(110 分) を観て戴きました。

この映像は 2008 年に NHK-BS で再々放送され、都合 3 回放送されました。記念館でも番組に資料提供し、エンドロールに記念館の名前を入れてくれました。「ギャラクシー大賞」や「放送文化賞」も受賞しました。110 分と長尺映像なので、なかなか観て頂く機会が少ない映像です。記念館には本や紙資料の他にも、中帰連を含め 100 本以上の「戦争関連映像」も保存しています。

所沢から来館者

所沢から 73 歳の男性が 9 月 26 日来館下さり、「中帰連や記念館を何処で知りましたか？」との質問に、「ＳＮＳで知り仲間に行かなくちゃダメ！」と言われたとの事でした。「ホームページを見て」という人はおりますが、「ＳＮＳを見て」と言う人は初めてでした。きっと来館された方が投稿下さったのだと感謝です。「また友人を連れて来ます」との事でしたが、多くの皆様に知って欲しいと思います。

連載　記念館資料室から
第26回　少人数の地方支部の平和運動

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局）

『前へ前へ』16号は、1959年3月15日の発行です。

今号も、冒頭から**「日米安保条約改定の狙いはどこにあるか」**という資料紹介と主張が数ページにわたり展開されています。**「台湾海峡の黒雲」**を前にして日米の軍事同盟を改訂することは、**「中国敵視の政策から一歩をすすめる中国侵略の政策」**として映っていました。アメリカの**「中華人民共和国への戦争挑発」**を、日本軍国主義が**「捲土重来」**のために積極的に利用している状況を、自らの戦争反省を踏まえて危険視しています。

「かつて日本軍国主義指導者はわれわれの頭に『大東亜共栄圏』だの『八紘一宇』だのという大シャッポをかぶせた。この大シャッポの故にわれわれは侵略の鬼になったのである。彼らはいまだにその罪悪を反省しようともしていない。今日、この大シャッポは形を変えてありない『共産主義の侵攻』となり、日本国民をアメリカの傭兵にかりたてるための口実にしている」。62年前の東アジア情勢は現在の状況と驚くほど重なっています。

こうした時代情況への対処に迫られる一方で、地方支部やその会員たちの間には、停滞と苦闘、試行錯誤が続いていました。**「二年来、本部とほとんど連絡を絶っているか、全く会費収納のない群馬、茨城、福岡、大分、長崎、また最近一年来これに近い状態になっている山形、秋田、山梨、三重、愛媛、兵庫、宮崎等の各県支部はそれぞれ内部でも活動が低下または中絶しているとみなければならない」**。だからこそ、会報の後半は**「仲間はたたかっている：各地支部の最近の動き」「支部だより」**と各

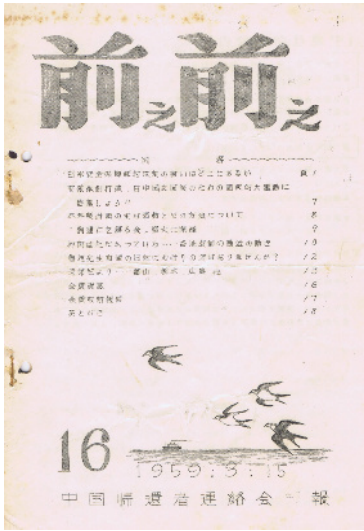
地の状況紹介に割かれ、励まし合いが重視されています。

先進的な取り組みが続いていた広島支部の姿勢は基本に忠実です。**「はじめ活発だった就職、住宅、応急家財獲得等の運動が一段落つくと、会員、支部ともに活動の目標を失い、次第に停滞し始めていたが、このような状態を検討して目前の小さな利益とともに、将来の反戦平和という大きな利益のためにわれわれの力を結集することが大切であるということから、会の性格を再確認して実践的活動にのり出さなければならないことが話しあわれている」**。

広島に次いで会員の多い山口支部は、広い県内の会員を1箇所に集めるのではなく、**「各地区ごとに集会をも」**ったことで**「防府、宇部、周東等の地区はほとんど完全に参加して多くの経験を話し合っている」**。具体的な論点の中には**「⑤ 日中関係打開活動について、⑥ 現在一番困難な問題は何か」**が含まれ、国際情勢にも個人的課題にも同時に向き合おうとしています。

大阪支部、山陰支部、福岡支部、栃木支部といった活発な地域だけでなく、熊本支部や福島県支部、静岡支部などでも集会が開かれていることは注目に値します。**「三陸沿岸地方支部」**でも**「それぞれ所属会員数が少ないので、独自の活動には困難が多く、かねて対策を要望されていた」**ところ、富山県支部が中心になって**「問題を練ることに」**なりました。その富山では会員６名中４名が集まって新年総会を開催し、時局学習会が行われました。病欠者2名の中には、有期刑戦犯だった船木健次郎の名前もあります。当日の話し合いは、**「過去どうしても消極的で活動的でなかった全員」**にとって**「本当に有意義」**になったようです。**「消極的な〔態度の〕根源には常に生活周辺の困難にとらわれ、大局的見地より革新勢力をみず、反動勢力を評価し、すべて自分を自ら弱々しくしていた大きなものが存在していた」「活動といっても何をどうしてよいかと迷っていたが、平和、民主運動の一助となるいかなる組織にても、一月一回、週一回でもよいから組織の中の一員となり、大衆に接し、教え、教わることが活動の第一歩であること、これができていなかった」**。地方かつ少人数会員の支部では、こうした地道で着実な歩みと気付きこそが平和運動だったことが分かります。

佐賀支部でもなかなか人が集まらない**「田舎の実情」**の中で、手記集**「『侵略』の普及に努力」**していると報告されています。現在のコロナ禍にあって私たちに何ができるか、中帰連の先達はその手がかりを示してくれています。



橋本勝さんの風刺漫画

『いつの日か核をもったため原発を・・・』

檜山さんの「油絵」紹介①

今回から毎号、中帰連（福岡）の檜山高雄さんの戦場体験の油絵を紹介致します。

・1920 年：広島県生まれ、小倉師範学校卒、戸畑国民学校教師
・1940 年：福山連隊に入隊。
・1941 年：中支那派遣軍 39 師団 232 連隊報道班勤務、湖北省駐留
・1945 年：ソ連シベリア抑留 5 年（カラカンダ、ハバロフスク）
・1950 年：中国撫順戦犯管理所収容 6 年
・1956 年：寛大措置の処理により釈放帰国、予備校校長（自由美術展出品）
・1962 年：春日市絵画教室主宰（11 年間）自由美術協会展 2 回入選
・1988 年：福岡県大野城市で 68 歳で逝去

【父さんと母さんが】

あの忌まわしい侵略戦争の反省の中から私は今、若い人たちに同じ過ちを絶対繰り返させてはならないと思っています。戦争は罪悪です。戦争は人間を鬼にします。私の絵が、少しでも戦争の実態を知る手助けになれば、それを超える幸せはありません。

檜山高雄（1988.7 逝去）

『はだしのゲン』寄贈受ける

金沢市の「NPO はだしのゲンをひろめる会」から、同マンガ全 10 巻の寄贈を受けました。故中沢啓二さんのこのマンガは多くの皆さんが既にご承知と思います。

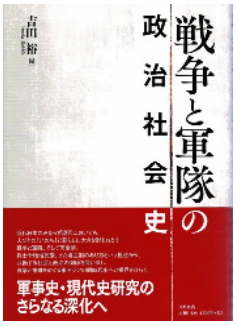
英語版やロシア語版など世界各国 24 言語で翻訳出版されているとの事です。

閲覧室に公開し皆様の利用に供したいと思います。

此処に感謝し御礼申し上げます。

寄 贈 図 書 か ら

小林太郎・著
編・解説
笠原十九司、吉田裕
発行：新日本出版社
発売：2021.2.15
（A5 版・313 頁）
定価:3600 円



吉田裕・編
発行：大月書店
発売：2021.7.22.
（A5 版、368 頁）
定価：4500 円

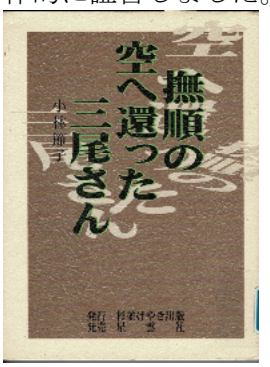
蔵　書　紹　介

中帰連の三尾豊さんは 1934 年に岐阜歩兵 68 連帯に入隊し中国に渡り、1936 年に憲兵となりました。関東軍憲兵として、満鉄調査部事件や大連事件にも関与し、多くの拷問に手を染め中国人 4 人（後にマルタと称されて殺害）を「特移扱い」として 731 部隊にも送りました。

しかし、管理所の「人道的扱い」で認罪し、鬼から人間に戻ることが出来ました。帰国後、中国から招請され藤田茂（元 59 師団長・中将）らと周恩来首相に面会しています。

同じ起訴免除で同期の憲兵だった長沼節二さんと共に「自分が送らなかったら（731 に）彼等は殺されることはなかった」と反省し、現地に謝罪の旅にも出ています。

帰国後も多くの場所で「証言」し、中国人被害者遺族が起こした日本での裁判でも、「731 部隊、特移扱い」など当時の日本軍の加害などを具体的に証言しました。



「ウエスタ川越」地図

（TEL：049-249-3777）駅西口徒歩 5 分

一 枚 の 写 真

「撫順戦犯管理所」の金源元所長夫人・鄭英順先生（左から二人目）が来館時の記念写真です。右隣りは初代理事長の仁木ふみ子（元日教組本部婦人部長）、その右は中帰連ご遺族の三尾明子さん、左端は元中帰連事務局長の高橋哲郎さんです。

（2007 年 5 月「記念館」の前で）

お詫びとお願い

前号会報 32 号に「振込用紙」の同封を失念し申し訳御座いませんでした。「会費、カンパ」のご協力宜しくお願い致します。

毎号「振込用紙」の同封はカンパを下さる方のためであり、ご理解頂ければ有り難く思います。尚、会員の「会費納付状況」は会報宛先のお名前の下に記載してあります。（「会計年度」は 4 月～ 3 月です）

『NPO 中帰連平和記念館』
〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
ＭＬ：npo-kinenkan@freeml.com
郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」
振込口座　：００１５０－６－３１５９１８
開館日：「水、土、日」（10:30 ～ 16:30）
（ご来館はなるべく事前にご連絡下さい）